

高度急性期病棟入院患者の入室期間中の FSS-ICU 及び IMS と退院時の ADL との関連

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

近年の医療技術の進歩により、重篤な疾患に対する生存率は向上しています。一方で、入院をきっかけに日常生活動作（ADL）が低下する「入院関連機能障害」や、高度急性期病棟入院によって身体的・認知的・精神的な障害が生じる「集中治療後症候群」など、新たな問題が出てきています。これらの障害は、身体機能の低下だけでなく、長期的な介護の必要性、自宅への退院困難、更には死亡率や再入院率の上昇といった、医療・介護の両面に深刻な影響を及ぼします。

このような背景を受け、当院でも専従のセラピストが看護師と連携して入院直後から介入を行い、ADL 低下予防に積極的に取り組んでいます。

集中治療室でのリハビリテーションの有効性に関する研究報告はありますが、救命救急センターとハイケアユニットでの調査は十分ではありません。今回、救命救急センターとハイケアユニットに入院した患者さんの入室期間中の基本動作能力及び活動レベルと退院時の ADL との関連を明らかにする目的として研究を行います。

本研究では診療を通じて得られた情報を使用しますので、新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2024 年 4 月～2025 年 3 月に当院の救命救急センター及びハイケアユニットに直接入院しリハビリテーション介入があった方

使用する試料・情報

年齢、性別、BMI、採血データ、座位開始までの日数、歩行開始までの日数、在院日数、転帰など
使用開始予定日：2025 年 9 月 22 日

研究予定期間

2025 年 9 月 22 日～2026 年 6 月 30 日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

[研究の情報管理責任者] リハビリテーション部 大崎敬之

[当院の個人情報管理責任者] 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先	済生会熊本病院 リハビリテーション部 大崎敬之 住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)
---------------	--